

A O ・ 指定校推薦合格者に対する入学前教育としての センター試験受験の試み

出光 直樹（横浜市立大学）
http://www.idemitsu.info

1．横浜市立大学の特別選抜と入学前教育

横浜市立大学は、2005年度に大幅な学部再編を行い、従前の国際文化学部・商学部・理学部を改組して国際総合科学部を設置し、従前からの医学科と看護短大を改組した看護学科からなる医学部の2学部体制となった。国際総合科学部は募集区分として3つの学系を有し、学部発足時よりセンター試験を課さない複数の特別選抜を実施してきた。医学部では2009年度までは一般選抜のみの募集を行ってきたが、2010年度より看護学科にて指定校推薦を導入した。2012年度の募集・選抜区分別の募集人員は以下の通りである。

		一般選抜 (前期日程のみ)	特別選抜		
			指定校推薦	A O入試	帰国生 / 留学生 / 社会人
国際総合科学部	国際教養学系	140	40	30	各若干名
	経営科学系	240	70	10	各若干名
	理学系	75	35	10	各若干名
医学部	医学科	90			
	看護学科	80	20		

* 国際総合科学部は学系区分で入学後、2年次より細分化されたコースに進級するカリキュラム。なお2013年度入試より、「国際都市学系」が加わり4つの学系で募集を行う。社会人特別選抜については2012年度から実施している。

特別選抜では、入学する前年未までには合格者が決定するが、これらの者に対する入学前教育の取り組みとして、2006年度合格者より英語学習に関する取り組み（12月の入学手続き時にオリエンテーション、2～3月に集中講座やTOEFL-ITP受験など）を開始した。この背景としては、2005年度より設置された全学必修の英語科目「Practical English」において、単位修得要件として原則としてTOEFL-ITP500の取得が課されている事が大きい。

また英語に関する入学前教育に加えて、A O入試の合格者に対しては、2009年度より大学入試センター試験の受験を課すとともに、指定校推薦の入学者に対しては、課題図書読書の提出を課してきた。

2．A O入試合格者に対するセンター試験受験課題の導入

A O入試の合格者に対してセンター試験の受験を課す試みは、2009年度にA O入試の実施時期が9月上旬出願～10月下旬合格発表と従前より1か月程度早められた事を機に、導入された。A O入試の実施時期が繰り上がってセンター試験の出願期間の10月上旬に重なったことにより、A O入試出願者に対してセンター試験への出願を徹底出来る事も、大きな契機となっている。

入学前教育の一環としての、選抜に用いない形でのセンター試験の受験では、大学はその成績を請求する事は出来ないため、センター試験の受験直後に本人に自己採点をさせ、その結果と受験に関するアンケートを報告させている。先に2010年度の学会大会で報告を行ったが、アンケ

ート回答からは、センター試験の受験が課されていることにより、大学合格後も緊張感を維持し、学習に取り組む姿勢への振り返りや、大学入学に向けて気を引き締めている様子が見えがえる。

3. 推薦指定高校へのアンケート調査と指定校推薦合格者による選択受験

指定校推薦は、11月上旬出願～11月下旬合格発表という時期で実施しているが、2010年度の合格者より、課題図書による読書レポートの提出を課してきた。センター試験の受験を課することも検討されたが、指定校推薦の出願時期がセンター試験出願（10月上旬）の後であるため、一律にセンター試験への出願を求める事は困難な事などから、しばらく見送ってきた。

しかし例年、指定校推薦の合格者の過半数は、センター試験にも出願をしている事は、以前より把握していた。これらの者の多くは、推薦を得られなかった場合に一般選抜で出願する事に備えての出願のようであるが、中には高校側の指導として推薦で合格した場合でもセンター試験の受験が課せられている者もいることが、先行するAO入試合格者の事例などからもうかがえた。

そこで2012年度の国際総合科学部の指定校推薦合格者に対しては、従前から課している読書レポートの提出に代えて、センター試験の受験と自己採点等の報告を選択可能とする事とした。

まず先だって指定校高校に対して入学前教育に関するアンケートを実施した。11月上旬の出願受付の際、各志願者からの出願書類提出と並行して、推薦依頼を行った高校からも被推薦者の有無に関する回答を求めているが、それに付随して以下のように自由記述にて入学前教育に関する意見を求めた。

【入学前教育に関するアンケート】

本学では、推薦入学者に対する入学前教育の一貫として、課題図書に対するレポートを課していますが、今後は大学入試センター試験の受験を課することも検討しています。この点も含め、推薦入学者に対する入学前教育に関しまして、なにかご意見がございましたら、ご自由にお答え願います。

その結果97校の推薦指定高校の内37校からアンケートへの回答があり、その全てが、入学前教育に関しては基本的に肯定的な内容であった。またセンター試験を課す事についての言及は33件あり、そのうち28件が肯定的な回答、5件が否定的な回答であった。また、高校側の指導方針として、推薦やAO入試等で大学への合格が決まった生徒にもセンター試験を受験させていると明記しているものも5件6件含まれていた。

指定校推薦の合格者に対しては、11月下旬の合格発表の際に入学前教育として、(1)英語に関する一連のものに加え、(2-1)課題図書による読書レポートの提出（2月上旬締切）または(2-2)センター試験の受験とその自己採点結果とアンケートの提出（1月下旬締切）のいずれかを選択することを提示し、12月下旬の入学手続の際に具体的な指示書類を配付した。その結果、国際総合科学部の指定校推薦合格者142名の内、84名がセンター試験に出願しており、その内の51名がセンター試験の受験と自己採点等の報告を選択した。

指定校推薦合格者のセンター試験の得点結果やアンケート回答からは、従前からのAO入試合格者のそれと同様に、センター試験受験の意義を積極的に受け止めている傾向が見受けられた。これらの得点結果やアンケート回答、高等学校のからのアンケート回答の詳細については、当日配布の資料により報告を行う。